

Point

02 正しい情報を収集しましょう

災害時には、さまざまな媒体（メディア）から情報が発信されます。近年 SNS が普及し多くの情報が収集できるようになってきましたが、大切なのは、正しい情報を得ることです。災害時には、落ち着いて正しい情報を収集し防災行動をとることで、被害を最小限にとどめることができます。市では、HP や各種 SNS のほか、次のとおり情報発信を行っています。

災害情報は
市公式 LINE でも
随時お届け



R7.9月～
運用開始

日立市防災 WEB ポータル

スマホやパソコンから気象情報や避難情報、ライフライン情報、交通情報などを簡単・スピーディーに確認できます。



詳しくはこちら



河川や道路の状況も映像で確認できます

戸別受信機



防災行政無線「戸別受信機」の貸出を行っています。転入された方など、まだお持ちでない方は、防災対策課へご連絡ください。

- 毎日午後 4 時 55 分に天気予報を放送していますので、受信状況を確認しましょう。
- 乾電池の液漏れを防ぐため、1年に1回程度、定期的に乾電池を交換しましょう。

安心ひろめーるぷらす

事前登録をすると LINE やメールで緊急の防災・防犯情報のほか、気象情報や地震情報、避難情報などを受け取ることができます。



詳しくはこちら

事前に自分にあった
情報収集手段を確認
しておきましょう！



戸別受信機がうまく受信できない・聞こえが悪いなどのお悩みは

防災行政無線サポートセンター ☎ 050-2017-3762 へ
(毎日午前 9 時～午後 4 時 30 分)

Point

03 ハザードマップを確認しましょう

ハザードマップでは、洪水・浸水・土砂災害・津波の災害リスク箇所（ハザードエリア）や避難所の場所などが一目でわかります。お住まいの地区の「地区別防災マップ」を HP などでも確認し、災害に備えましょう。



「WEB 版ハザードマップ」も公開しています

住所を入力すると自宅近くの災害リスク箇所や最寄りの避難場所が確認できます。印刷して、家族だけのハザードマップを作成し、災害時に備えましょう。また、災害時にどこに避難するか、どのように連絡を取り合うかを事前に家族で話し合っておきましょう。

詳しくは
こちら



特集 - 3.11 東日本大震災から 15 年 -

災害への備えは十分ですか？

3月11日で東日本大震災から15年を迎えます。日立市では最大震度6強を観測し、沿岸部では、津波により家屋が流されるなど、大きな被害を受けました。また、ライフラインも停止し、最大13,607人が避難所に避難しました。

震災以降も全国各地で大地震が発生しています。昨年12月8日には、青森県東方沖で最大震度6強の地震が発生し「北海道・三陸沖

後発地震注意情報」が初めて発表されました。また近年は、気候変動の影響により集中豪雨や線状降水帯の発生頻度も増加しており、浸水や洪水などの水害の発生リスクも高まっています。このような災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。この機会に、ご家庭で万一のときに備えた話し合いをしてみてくださいはいかがでしょうか。

問合せ 防災対策課 ☎内線 337

Point

最低でも3日分、できれば7日以上

01 非常持出品や備蓄品を準備しましょう

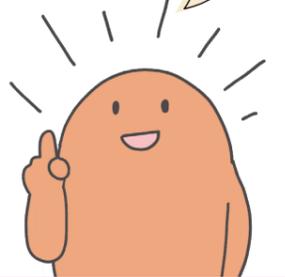
東日本大震災発生時にライフラインが停止したとき、市内では復旧までに電気が6日、ガスが8日、水道が11日かかりました。災害に備えるためには、日頃から食料や日用品の備蓄・点検を行うことが大切です。

最低限準備しておきたい非常持出品リスト

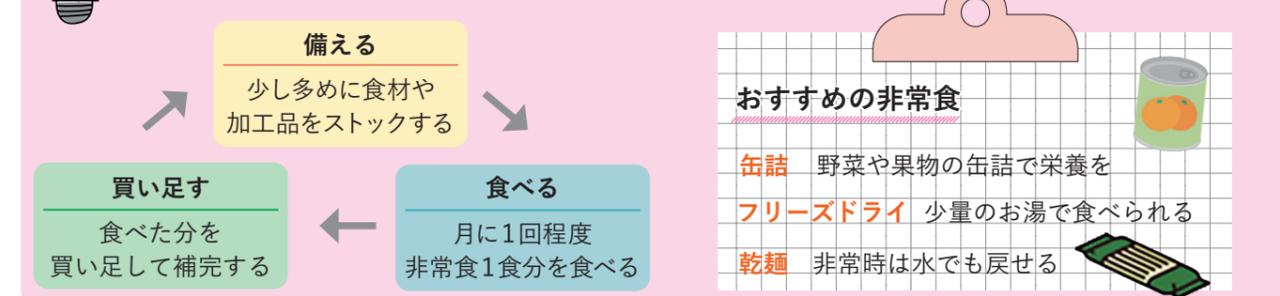
- 飲料水（1人1日あたり3リットルが目安）
- 非常食（なるべく調理せずに食べられるもの）
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- その他（くすり、衣類、現金、ヘルメットや防災ずきん、ウェットティッシュ、使い捨てカイロなど）



令和5年度に市が配布した非常持出袋やお持ちのリュックなどを活用しましょう！



ローリングストック法*を活用しましょう



*ローリングストック法とは、普段から食料品を少し多めに買って置き、使った分を新しく買い足していくことで、常に一定量の食材を備蓄することです。